

第4回江別市学校給食用食器検討委員会

日時 平成24年5月22日
午後3時00分
場所 給食センター会議室

(委員長)

それでは第4回の江別市学校給食用食器検討委員会をただいまより開催いたします。本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

今日は箸について協議していただきます。前回の課題について、事務局で資料を準備していただいていると思いますので、それを基に精力的に協議を進めてまいりたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは次第3の確認事項(1)第2回委員会会議録について、既に事前に目を通していただいていると思いますが、内容の削除加筆等についてありましたら出していただきたいと思います。ございませんでしょうか。

(各委員)

なし

(委員長)

なしということですので、(2)第3回委員会会議録についてはいかがでしょうか。

(各委員)

なし

(委員長)

それでは確認事項の会議録については、特になしと言うことでした。

続いて、4の説明事項に入ります。(傍聴の方入室)

(事務局)

第1回から第3回までの検討委員会会議録について、この形でホームページにアップさせていただきます。

(委員長)

それでは4番目の説明事項に入ります。1番目PET箸に関する資料ということで製品安全データシートと、充填剤、危険有害成分、使用顔料について事務局から説明願います。

(事務局)

追加の資料としてC社から提出されたもので、最初は耐熱PET箸の材質の特徴として記載されているイオンピュアというものの製品安全データシートです。2番目に組成・成分情報、3番目に危険有害性の要約等について記載されております。もう一枚は、充填剤、危険有害成分、使用顔料についてのC社からの回答です。用件のところに記載してあります2の①、充填剤に関しては原料メーカー(G社)から、安全なものを使用しているが公表できないとの回答です。前にお渡しした、食品衛生法・衛生試験結果でご判断いただきたいとのことと記載されております。②の危険有害成分についてですが、1%以上の含有の際に記載が求められます。ただ、その下に危険有害性の分類、分類名称で該当せず

とありますので、使用してはいいことが示されています。③の使用顔料については食品衛生法に適合したものを使用しております。以上の回答が来ておりましたので、事前に送付しております。以上です。

(委員長)

事務局より資料の説明がありましたが、今の説明に関して質問ございませんか。

(D委員)

われわれの団体の代表者からの意見・質問がありますので、読み上げさせてもらいます。

PET箸について、製造メーカーでも充填剤のメーカーから公表できないということで、成分を把握していないということは問題があると思います。メーカー側の安全とこちら側の安全の認識にはかなり距離があることを経験しています。使用顔料も食品衛生法に適合というだけで食品グレイトなのか、プラスチック着色剤グレイトなのかも解らず、6色すべての顔料が何なのか解りません。抗菌剤の無機（銀系抗菌剤）イオンピュアNDCのMSDSの組成成分情報には、化学名がガラスとあり、CASナンバーにもガラスのみでどこにも銀は明記されておられません。100%開示の成分表を求めないと出てこないと思われれます。金属アレルギー、(銀アレルギー)の人には注意が必要なようです。またアレルギー、化学物質過敏症の子を持つ親達は、抗菌剤の入らないものを探して使用している実態があります。抗菌剤の入らないものが望ましいと思います。保護者は、お箸が直接口にするものですから、本当に安全なものを望んでいます。という意見です。

(委員長)

今、何点か意見と言う形で出ておりましたが、それに対して事務局は何か見解はありますか。

(事務局)

銀について記載されていないのは、確かにおっしゃる通りだと思います。事務局では、見解・意見というものはございません。

(委員長)

それ以上の資料はメーカーの方としてはでないということでしょうか。

(事務局)

これが安全データシートですと言う事を出されておりますので、確認することはできませんが、確認した方がよろしいでしょうか。

(委員長)

今の意見に対して、事務局では答えられない範囲だと思いますので、今出た意見について、さらにメーカーに聞く必要があるかどうか、D委員いかがでしょうか。

(D委員)

PET箸で決定に至るのであれば、出していただきたいと思います。

(委員長)

他の委員さんから意見ありませんか。

PET箸になるかはこの後の協議で変わってきますが。

(委員長)

特に意見がありませんので、さらに説明を進めてまいりたいと思います。

2番目の第3回委員会で持ち込まれた箸についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

次第と別にもう一枚つけておきましたが、前回私からランニングコストの話をしたので、そのことについて説明させていただきたいと思います。2表ある方を先に説明させていただきます。表の下に※印で書いてあるのですが、金額的にわかりやすくするためにプラスチック箸を100円、竹箸は150円と120円ということで、計算させていただいたのですが、数量は1万膳で計算しています。プラスチック箸は5年に1回更新、竹の箸はこの前出ていた毎年13%買い替えということで計算しています。まず左側の表ですが、1年目にはプラスチック箸は100円で1万膳ですから100万円。竹の箸は150万円ということになります。プラスチックは5年経過した6年目にまた100万円ということで5年ごとにずっと100万円計算していきます。竹箸は毎年13%買い替えるとして計算しますと195,000円かかり、少しずつコストの差は縮まっていきます。30年たっても1,150,000円のトータルコスト差はありますが、これが高いか安いかは、安全性のこともありますから、考え方はいろいろあると思います。それで、コスト差があまりなるにはどれくらいの差かと、1年13%で、5年で65%になるので、どれくらいであったらコスト的に同じになるかということで、右の表ではプラスチック箸を100円、竹箸を120円で計算してみました。25年を経過してプラスチック箸を買い替えたところで、トータルコストは逆転します。竹箸の方が2割ほど高いのであれば、この程度でトータルコストは逆転することになります。しかしながら、この表をつくった後に、A社から、今ためしに使っている箸が実際いくらで入るのか聞いてみました。プラスチックの箸ですとカタログに200円と載っているものが、6掛け7掛けぐらいで入るものですから、聞いてもらったところ200円のものも200円ということで1万膳買っても単価は下がらないということでした。ですから裏面にプラスチック120円、竹が200円ということで計算しますと、コストはどんどん広がっていきます。竹の方が当然1膳200円ですともともと高いですし、13%入れ替えしていく部分も毎年26万円かかるとしますと、コストはどんどん広がって、縮まることはないということです。前回コストの話をしたので、実際に計算したものを資料として出しました。

それで、あと前回からゴールドンウイークを挟んで、3週間ほど箸を実際に毎日水に漬けて、そのあとセンターの消毒保管庫で乾燥、消毒、殺菌ということでやってみましたので、触って見ていただけたらと思います。

(各委員)

委員箸の感触を確認する。

(事務局)

私も触ってみたのですが、当初滑らかだったものが、肌触りにざらつきがあって、ささくれとまではいかないのですが、ちょっとざらっとした感じだなというのと、物によっては、竹の外側と内側で、明らかに内側に曲がっています。2本重ねると隙間ができてしまうのもありました。3週間程度ということなので、これを1年使うと13%の入れ替えで済むのかどうかわかりません。13%というのも一つのデータですが。

箸籠の関係でF委員から報告があります。

(F委員)

前回、たまたま箸カゴが壊れた状態の時に、業者の方から見本としてもらったものがあったてそれをお見せしてしまったのですが、それと今現在うちが使っているものが違う形状のものでした。ですから今使っている箸カゴからこの竹箸が飛び出すことはありません。前回お見せしたのは穴が少し大きいもので、今現在使っているものがパンチングされたステンです。洗浄過程で30分程度ぬるま湯に漬けて、それから乾燥という形で3週間程度試してみましたけど、飛び出すことはありませんでした。申し訳ありませんでした。

(委員長)

前回、課題になっておりました洗浄結果と箸カゴに入れて飛び出して支障が出ないかの2点について、今報告がありました。

今の説明でご質問ありませんか。

(各委員)

質問なし

(委員長)

コストですけれど、竹箸の金額が120円、150円、200円と3種類出ておりますが、我々素人なので正直どれくらいのコストですと給食運営上支障がでるかとか、そういうことは正直わかりませんので、もし事務局でこれくらいの金額の竹箸であれば、やっていけるであろうという目安みたいなものがありますか。

(事務局)

実際高い200円、300円する箸を使っているセンターもあるようなので、一概に高いからとは言えません。今回、予算的には前回購入して今使っているプラスチックの箸の単価で予算は算定されております。例えば、この検討委員会で高くてもどうしても安全性から言ってこの箸がいいのではないかとありますと、それを教育委員会の方に意見として報告することになります。教育委員会は、コスト面、安全面等トータル的に考えてこの箸にすべきという判断をします。その前にはパブリックコメントということもあります、が総合的な判断で、高くても、その箸と決定すればあとは補正予算を要求して購入するか、今年度の予算では足りないので、来年度で予算を獲得して購入するか、そういったことになります。いくらであればいいということは一概に言えないと思います。もちろん安ければいいに越したことはないのですが。

(委員長)

とりあえず竹箸を考える場合には、今回の資料にある3種類の値段については同等に考えてよろしいでしょうか。

(事務局)

この150円と120円というのは、トータルコストで釣り合うなら120円ぐらいになることで資料として示しただけです。実際に150円の箸があるとか、120円の箸があるわけではありません。前回のコストの話について説明したかっただけです。

実際にはプラスチック箸は120円で、竹製は前回提示された箸のなかで、一番安いものが200円だったと思います。それで、実際の120円と200円で計算してみました。

(委員長)

説明事項の件について終わりました。2件合わせてご質問、ご意見ございませんか。

(D委員)

これも、代表者からの意見をそのまま読み上げさせていただきます。箸の予算についてですが、議事録を読んで予算でいったいなんだろうと思いました。現時点で事務局が設定した金額というだけではないでしょうか。現在使用しているPENの小皿は同程度のものがカタログ上780円となっています。前回検討された中皿はPENが910円から950円、実際に納入された高強度磁器は490円でした。PENの食器は高いと正直思った記憶があります。その私達が高いと思ったPEN食器を納入し検討材料にもあがりました。今回、前回といずれもある意味予算から大幅に下げることができそうです。なぜ箸は安価なものでなければならないのでしょうか。この固定観念はどこから来ているのでしょうか。お皿は高くてもいいがお箸は安くなければならないのはどうしてなのでしょう。今、箸は太くなればいけないという流れになってしまっているように感じます。それは洗浄機である機械の方に向いてしまっているからではないでしょうか。ということで、今日もらったFAXなので、前回のところまでしか代表者には情報が届いていませんので、今ご意見いただいたのとは違って来るかもしれません。続けます。なぜこの検討委員会が設置されたのかを、思い出してください。給食センター内部の検討会で検討されたものは全てこの検討委員会で、別なものに変更になっています。機械の方に向いて選定すると間違った材料選びをしてしまうのかもしれませんが。給食は教育です。実際に給食を口にする子供達や教職員の皆さんは、先の太い箸がよりつかみやすく食べやすいのでしょうか。太い箸の代表格である割り箸は、子供達は上手に使うて食べられるのでしょうか。各家庭で使っているものは、ほとんどが先の細いものだと思います。プラスチックの箸は技術的に折れの問題があるため細く出来ないと聞いたことがあります。実際、前回サンプルを持参した箸を使っている日田市天瀬学校給食共同調理場は、はじめ洗浄機の箸入れから箸先が出たそうです。しかしこの箸を使うということをしっかり考え、以前使用していたものを、網目の細かいものに買い替えして使用しているそうです。箸入れは問題ないということでしたので、中略させていただいて、検討委員会本来の目的である安全な材料というふうに子供達に給食を食べて貰いたいという食育という目線で検討して欲しいと思います。ということです。

(委員長)

今の意見の中で、給食センターの箸入れの洗浄については問題ないということですので、そのことについては解消されていると思いますが、安全安心を第一に考えて検討委員会で協議して欲しいという意見でした。

前回もうひとつ課題がありまして、この3種類の箸の他に、新たな品物があれば提示してもらいたいということで、前回最後のほうでお願いしたのですが、それはなしということでもよろしいですか。

(事務局)

A社で調べてくれたものがあるのですが、予算もサンプルも出てきていません。使われているニスについてのデータを見ますと、いわゆる一般規格のデータに適合しているだけ

ということになっており、個別規格のないものということになっています。塗られている樹脂についてですが、日本製ではあります。値段的にはおそらく100円少しで買えると思います。ただ、今皆さんにお見せできるものはありません。

(委員長)

成分上も、疑問になる部分もありましたので、改めてその品物を増やして検討するということはしなくていいのかなと私は判断したのですが、委員の皆さんはいかがでしょう。

(各委員)

意見なし

(委員長)

説明の部分については、以上で終わりました、協議事項に入りたいと思います。箸の選定を進めていきたいのですが、1点課題が出てまいりました。先ほどの意見で、PET箸に関しての成分上の疑問点が、払拭されていないということがありました。そこがはっきりしないと、竹にするかPETにするかの部分でも判断に窮するという意見だったかと思います。であれば、今日はその資料を提示することはできませんので、改めて資料を提示して貰って検討してもらおうか、あるいは今日の資料で竹にするかPETにするか、そのあたりまとめたいと思います。

その点についてご意見ありませんか。

(委員長)

D委員は、新たな資料が出ないと、判断の基準が明確ではないということですね。

(D委員)

この時点では竹しかないと思っています。

(委員長)

J委員はどうですか。

(J委員)

竹ですが、私は、ささくれがちょっと気になりました。

(委員長)

PETはいかがですか。

(J委員)

PETの方はなんとも言えません。

(委員長)

C委員はいかがですか。

(C委員)

正直PETの部分に関していろいろな成分に関しても全くの素人ということですので、私もわかりづらい部分があって、いいのか悪いのかという判断が難しいところなんですけれども、このままいくと委員会では同じことの繰り返しになるのではないかなという気がします。D委員の会の代表の方が、求めていることを先に本来であれば1回事務局に尋ねてから、会議に臨めば会議もスムーズにいくと思いますが、このままいくとこの次もまた、こういうFAXがありましたということで、どうどう巡りのような気がします。ちょっと今質問とは関係ないことを言わせてもらいましたけど、竹に関しては確かにざらざら感と

いを感じたのですが、これがさらに何回も何回も積み重なっていくと、悪化していくのであれば、竹だとちょっと多少問題が出てくるのかなと言う感じで先程触らせていただきました。PETで問題がないのであれば、本来そっちの方がいいのかなという感じを受けています。

(委員長)

ありがとうございます。

副委員長いかがでしょうか。

(副委員長)

私も3週間だけということで、気になっているのですが、きっと子どものことになれば、材質的にはこちらのほうがやさしいのでしょうかけれど、ささくれの点は大きなけがにつながるのでちょっと考えます。PETのほうはコストが5年間でなにもかからないのかなというのが気になります。5年間使って、その間本当に破損やら何か、他に思いつかないですが、竹は13%曲がるという前提で値段が出されていますけど、プラスチックやPETは壊れるといったことは全くないのでしょうか。

(F委員)

ほとんどありません。

(事務局)

補充として買ってないはずです。

(F委員)

買っていません。

(事務局)

プラスチックですから、かなり力がかかれば、折れる可能性はありますけれど、通常使う分には折れることはありませんので、補充して購入したことは5年間ないということです。

(F委員)

それと年々児童生徒数が減っているんで、それで十分補われています。

(委員長)

先ほど言われた食品衛生法に適合したものをというコメントは、いいという言い方ではないので、こちらの方も気になって本当に安全なのかというのは、D委員の会の代表が言うように、直接口のなかに入るものなので、もうちょっと考えた方がいいのではないかなと思います。

(委員長)

それではA委員どうですか。

(A委員)

今回、FAXでC社から来た資料は、公表できないということなので、また改めて聞いても公表できないという回答がくるのではないかと思います。もし公表できないのであれば、いろいろと説明ができないのでPETは除外されていくのかなと思います。公表できるのでしたら、その資料を見て、安全性を確認して検討材料にできると思います。竹の方では、中国製とか国産とかありましたけど、今出ているのは国産のほうですね。PETの

方はいろんな成分の分析をしている成分表を出されて検討していますけれど、竹の方はそういうことをしなくても安全だというようなことでいいのかどうか。いいのであれば、今の段階としては資料の公表ができないのであれば竹の方が有力なのかなと思います。

ただ竹の方も、国産だから安全だとは言えない部分もありますよね。今は、日本国内いろんな問題があって国産だから安全、外国産だから危険というふうには簡単にはいかないと思うので、両方とも安全性を確認できる方法を選択していくのが一番だと、そのために資料の準備は必要かなと思います。

(委員長)

P E Tの、公表できないという部分、先ほどのF A Xの意見にもありましたけれど、ここがかなりひっかかっているかなと感じました。箸は、D委員の会の代表がこれを用意していただいたのですが、安全性についての質問があったのですが、これについては何かご存知な部分がありますか。

(D委員)

材質については、無塗装の竹そのものだけです。ただ、例えば今の時期ですので放射能の検査をしているかとかはわからないと思いますが、竹以外ものは何も使っていません。

(A委員)

今、口頭で話を聞いていますが、製造メーカーの資料ですとか文書を見せてもらわないと、こういう会議の中では口頭で大丈夫ですよと言われても、なかなか話し合いになっていかないかなと思います。

(D委員)

前回の時に資料をお渡ししましたでしょうか。

(事務局)

竹自体の素材について調べたものというのはどうでしょう。

(D委員)

メーカーとかはお渡ししましたよね。

(事務局)

ええ。

一般的に、竹とか木とか一般に安全だと言われているものは、食品衛生法上の基準はないと思います。プラスチックとか陶磁器ですとか、そういう加工しているもの、上にもものをかけているものは基準があると思うのですが、食品衛生法上の木、竹そのものに対する試験というのはないと思います。

実際、木や竹は地下から水を吸っていますから、地下水に何かが含まれていれば、100%安全かどうかは誰にも言えないし、結局調べなければわからないという点では同じなのかもしれません。

(委員長)

竹については、竹以外のものは使用していないということは間違いはないですね。

(D委員)

はい。

(委員長)

B委員はどうですか。

(B委員)

今話を聞いていて思ったのですが、今の時代自然界のものだからといって安心だということではないですね。私はやはり、箸持参という方向に少し目を向けてもいいのかなと今ちょっと思い始めています。その方法をどのようにするかは後で考えてもいいと思っています。

(委員長)

箸持参については、以前の委員会の中でも議題になり、衛生上の問題あるいは学校での管理の問題等で今現在では難しいのではないかとということで話は終わっています。ただこの後話を続けて、全てが安全性に疑問があるというのであれば、最終的な結論として、それもありかなと思います。何とか結論は出したいと思っておりますけれども、ただ、今その部分の議論は差し控えて、あくまでも竹とPETについての議論を進めていきたいなと思っています。

(委員長)

F委員はどうですか。

(F委員)

今回、3週間ほど洗浄工程に似た形で20分ほどぬるま湯につけてから、ある程度水を切って、消毒保管室にいれ、80℃から85℃で75分程度乾燥させました。ただ、それはお湯につけた状態です。自分達は、以前竹箸を使っていましたけど、実際に調味料のケチャップ、しょうゆなどが付いた色々なものを食べて、それを学校から回収ということになりますと少なくとも1時間から2時間、中学校にしたら2時間半くらい放置される状態で、果たしてそれがどれくらい食材の色が染み込むかという心配はあります。

(委員長)

G委員どうですか。

(G委員)

先程も別な委員がおっしゃっていましたが、PETで安全性が確認されていない部分があるのであれば、安全でないものを子供達の口の中に入れるということがどうなのか。もし、データとしてわからない部分が明確になるのであれば、そういったものを出したなかで、議論していったほうがいいのかと思います。

(委員長)

H委員お願いします。

(H委員)

私も現場サイドなのですが、やはり給食を食べた後、洗浄までの時間、学校や配送中放置されることが気になります。また、先程触ってみたのですが、ざらつきがあるため食材などが残って洗浄でも落ちづらいという気がしますし、現場的にはPETの箸が使いやすいと思います。あくまで個人的な考えですが、耐用面に関しては、PETのほうがいいのかと思います。ただ成分がはっきりしていないので、今はなんとも言えないところです。

(委員長)

今、一通り委員の皆様のご意見をいただきましたけれど、補足と、言い足りない部分がありましたらお願いします。

(A委員)

みなさんの意見を聞いているとPETにしても竹にしても、両方足りない部分があると思います。PETについてはデータが揃っていない。竹については、実際に使用する環境で実験していない。ですから竹については、この次の委員会まで、ちょっと期間をおいて実際に使用するような環境で実験してみて、その結果を出す。C社については、公表できないというデータ、こういう事情では是非出して欲しいということで要請する。そのデータが2つ出そろった段階でまた、委員会で検討する。もしC社で出せないということであれば、出せない状況と、竹の状態を見て、検討していくということしかないと思います。そうやらないと、色々納得できないままに決定していかなければならないのかなと思います。相当の期間を空けてやってみたらどうでしょう。

(委員長)

その他意見ありませんか。

(D委員)

竹の箸については、今の箸になる前、プラスチックの箸になる前に使っていましたよね。その時は反りがだんだん出てくるということで、やめたというふうに聞いているものだから、材質がささくれ立つとかそういう話ではなかったように記憶していますが、そういうこともあったのでしょうか。

(事務局)

前の時はニスを塗ってあったものではないかと思います。中国製ですから、それ自体も今論議するなかではよろしくないものに入ってしまうのかなという気がします。

先程から充填剤の話が出ておりますが、最初に資料をお出しした、材料データ安全シートのなかで非公開としておりました。その非公開の部分について、教えてくれと言ったことに対して原料メーカーのG社が公表できないと再度言ってきているということは何度聞いても答えないのではないかと思います。

(委員長)

私も思ったのですが、ここがやはり今回事前に見てえっと思ったのが、公表できないその理由が知りたいのです。こういう理由で公表できないということがわからないので、逆に不安感が増幅されているところがあるので、少なくともその理由づけだけでも聞いてはつきりさせていただければ話し合いの材料になると思いました。

(事務局)

通常は企業秘密ということですから、独自に開発したものを公開するとマネされるので公開しないというのが理由だと思います。

(委員長)

そういう意味でとらえていいですか。

(事務局)

確認はしておりませんので、そのことについては確認をさせていただきます。

(委員長)

その他の委員の方で、ご質問、ご意見ありませんか。

(B委員)

前に箸持参という話が出ていたのですけれど、あの時は、原則は箸持参にして、忘れた人には用意したものということだったと思うのですが、私が今考えるのは、原則は給食センターで用意した物を使用して、用紙した物を使用したくない人は、箸を持参してもよいということにすれば、ちょっと方向性が変わってくるのかなと思います。そのことも頭に入れて材質の検討をしていただきたいと思います。

(委員長)

確かに前回の持参というのは、全児童生徒に持参させるという観点で話し合いをしていて、そこに出てきた課題によって今回は難しいだろうという結論に至ったものです。この検討委員会で結論を出しますが、B委員からの今の意見も一つの案というふうに思います。当然、今日それを話合うのではなくて、まだこの委員会は開催されると思いますので、ある程度方向性を出すときに、今の意見も合わせて皆さんで検討していく。そういうことでよろしいですか。

(各委員)

異議なし。

(委員長)

話を伺って、やはり今日のこの段階で、不明な点が残っている状況では、どちらにするかというようなところまではいかないというふうに私は感じました。それについては間違いないですね。

PETについては、先程意見、質問等が述べられていましたので、そのことについて再度問い合わせをして、聞ける範囲は限られているかも知れませんが、それに対する資料をいただくと。竹についても、先程宿題が出ていましたけれど、それについて再度やってみる。今回感じとして確かにささくれ、曲がりも見えました。さらに期間を伸ばした時に、それがより明らかになる、あるいは曲がりもちょっとひどいとなれば、それも一つ箸の決定の観点になるのかなと感じます。

今の段階では、ささくれ、肌触りについても極端な感じは持てなかったもので、それも含めて次回までに、今言った2点について準備して、そして方向性を決めていきたいと思うのですがいかがでしょうか。

(各委員)

意見なし

(委員長)

事務局の方はいかがでしょうか。

(事務局)

充填剤について、なぜ出せないのかということを確認することと、箸については、先程F委員が言ったように、実際に給食センターの職員が使ってみたいと思います。期間は結構とったほうが良いような気もするのですが。

(委員長)

これまで1か月ごとに、この委員会を開催していましたが、例えば2か月後、或いは3か月後と間をあけて、今言った課題について準備をするということによろしいでしょうか。

(各委員)

意見なし

(委員長)

だいたいどのくらいの期間になりますか。

(事務局)

7月下旬には夏休みに入ってしまうので、その前まで使ってみたいので、そうすると2か月ぐらいです。

(委員長)

では7月に次の委員会を行うということによろしいですか。

(各委員)

異議なし

(委員長)

日程については、前回と同じように事務局で調整してください。

(事務局)

あまり早く日程調整しても予定がたっていないと思いますので、1か月前ぐらいがよろしいでしょうか。

(委員長)

調整が必要ですから、少し間があったほうがよいと思います。6月下旬でどうですか。

(事務局)

では1か月後位にまた、調整の文書をお出しします。

(委員長)

ということによろしいですか。

(各委員)

異議なし

(委員長)

次回の開催日、(2)の協議事項についても、確認を終わりました。

本日の第4回の食器検討委員会を終わりたいと思います。

ご苦労様でした。